

技能検定職種の統廃合等の第2次判断基準となる社会的便益の標準点の例

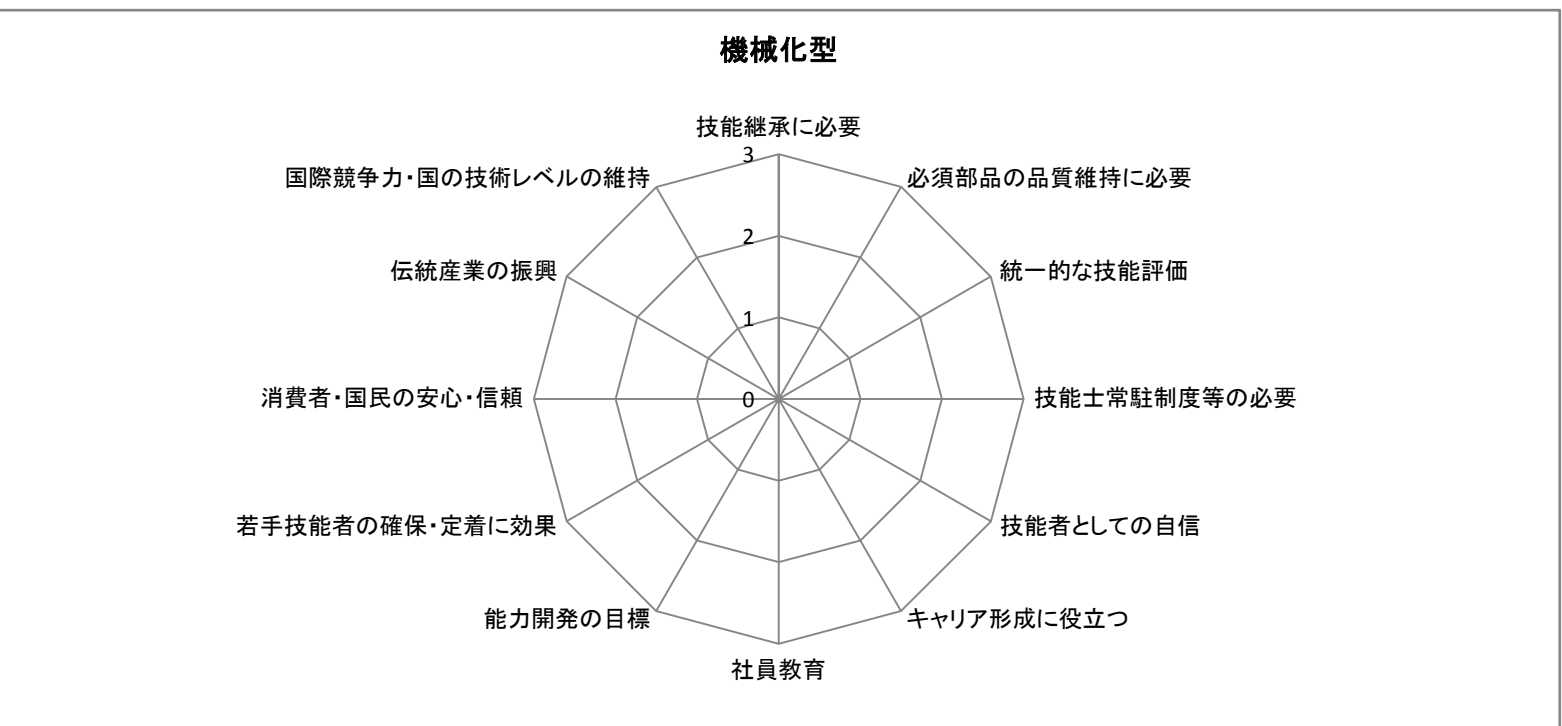
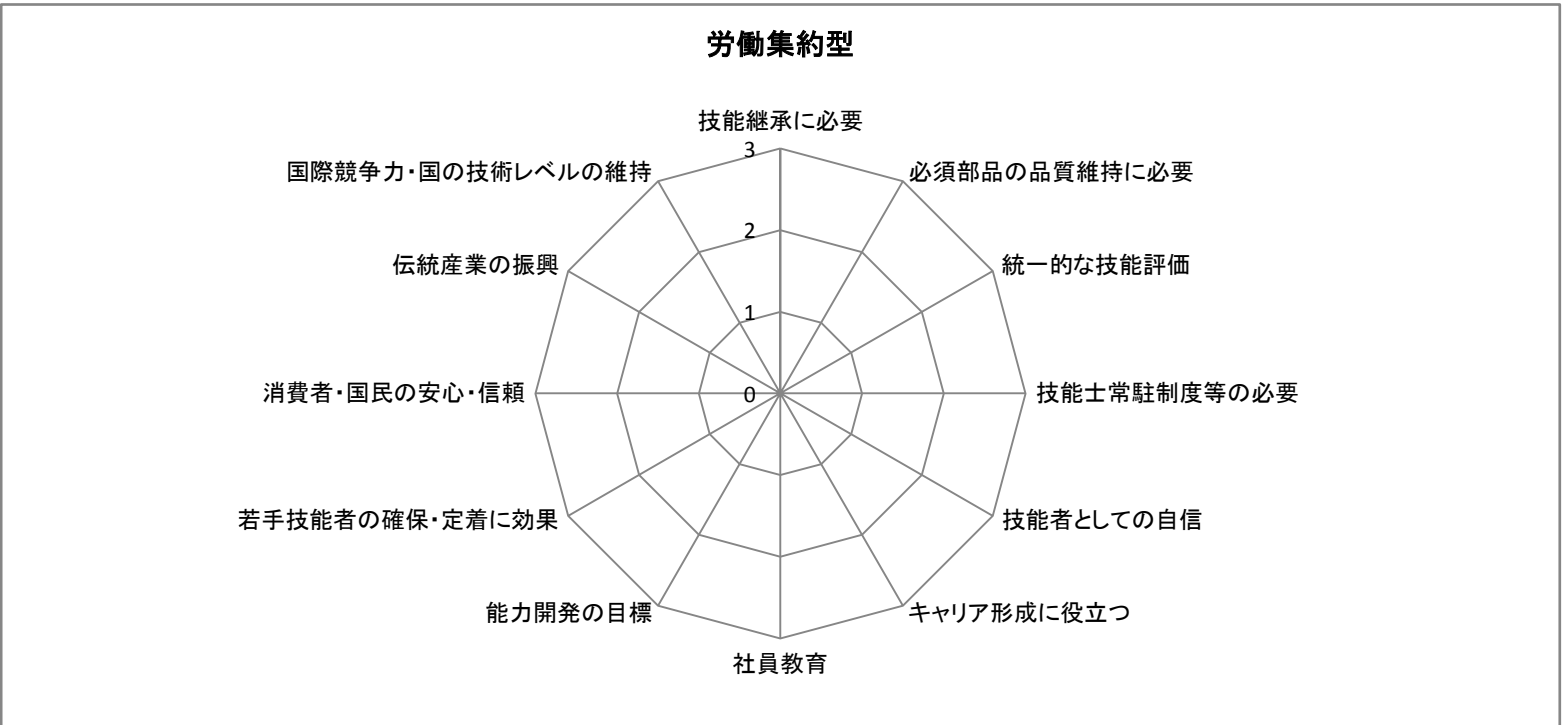
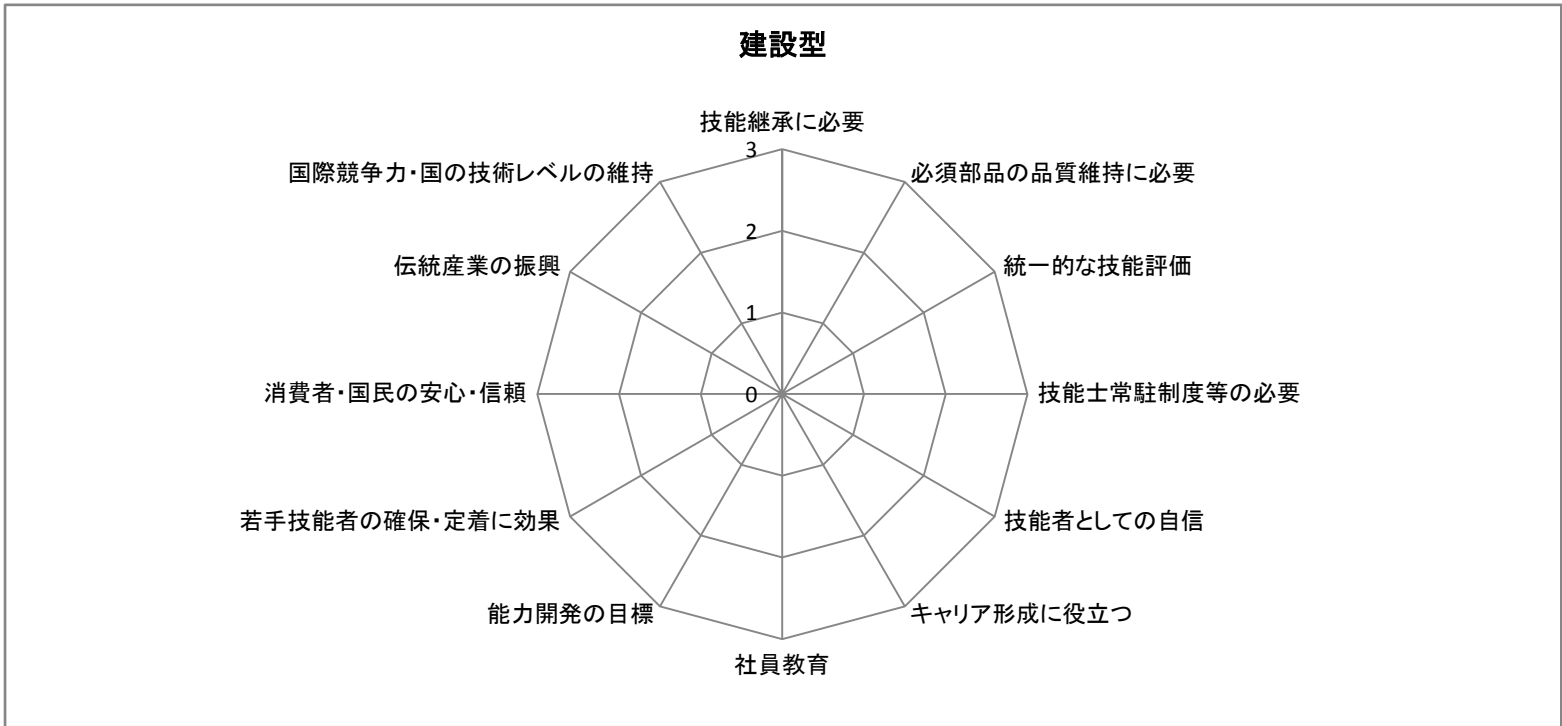
	採点項目	建設型	製造型(製品生産型)		製造型(生産支援型)		工芸型	サービス型
	小項目		労働集約型	機械化型	整備型	生産基盤提供型		
業界にとっての便益	技能継承に必要	6	5	7	5	7	5	5
	必須部品の品質維持に必要							
	統一的な技能評価							
受検者にとっての便益	技能士常駐制度等の必要	7	5	4	4	3	4	5
	技能者としての自信							
	キャリア形成に役立つ							
雇用主にとっての便益	社員教育	5	7	6	5	6	5	7
	能力開発の目標							
	若手技能者の確保・定着に効果							
消費者・国民にとっての便益	消費者・国民の安心・信頼	2	3	3	6	4	6	3
	伝統産業の振興							
	国際競争力・国の技術レベルの維持							
合計		20	20	20	20	20	20	20

(注)各項目の点数は、採点項目の小項目ごとに 便益が高い:3点 便益がある:2点 便益が低い:1点 便益がない又は非常に低い:0点 として計算したものである。

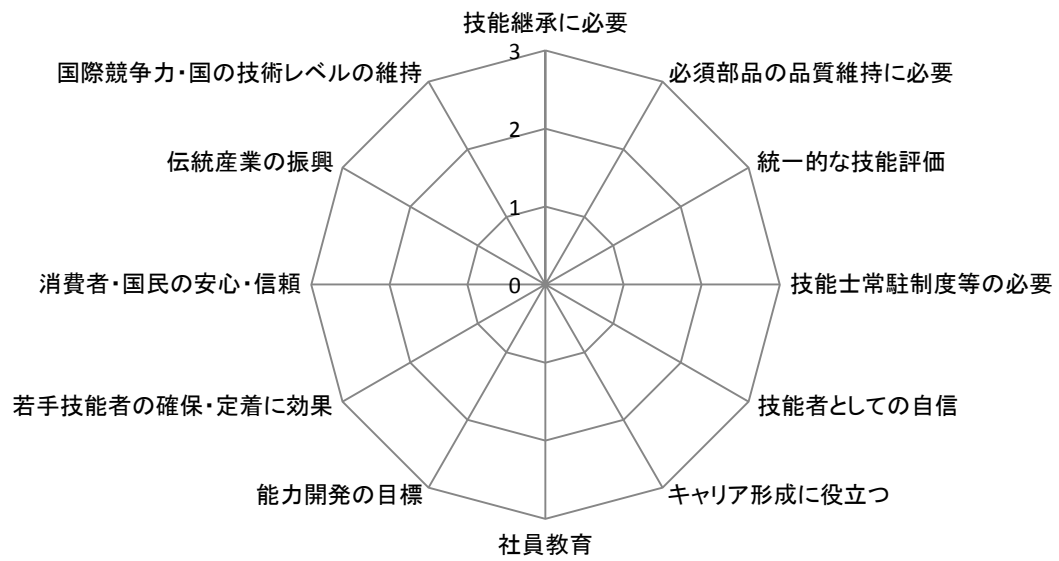
社会的便益の採点に係る判断基準例

観点	採点項目	判断基準例
業界団体	技能継承に必要	労働者の個人的な能力に頼る作業の割合が高いか、マニュアル化が難しい技能か。
	必須部品の品質維持に必要	消費者に渡る最終製品の製造工程に関与しているか、個人の労働者のみでは製造できないものを対象としているか。
	統一的な技能評価	地域や企業によって特色があることから、統一的な技能が必要か。
受検者	技能士常駐制度等の必要	関係する資格制度があるか。 取引に必要か。
	技能者としての自信	企業における処遇に反映されているか。 技能のアピールとして利用できるか。
	キャリア形成に役立つ	転職に利用可能か。 1級、2級と段階的に受検をしているか。
事業主	社員教育	大手企業、中小企業、零細企業、自営業の比率はどうか。
	能力開発の目標	業界内で広く認知されて、利用されているか。
	若手技能者の確保・定着に効果	当該職種に関する訓練科の修了者、学科の卒業者が存在するか。 3級技能検定の受検者数の増加があるか。
消費者・国民	消費者・国民の安心・信頼	技能の対象とする製品：サービスが最終製品（消費者に渡るもの）に近いか
	伝統産業の振興	日本独自の産業であるか
	国際競争力・国の技術レベルの維持	海外で製造された製品や海外から提供されるサービスと質的・量的・价格的に競合があるか

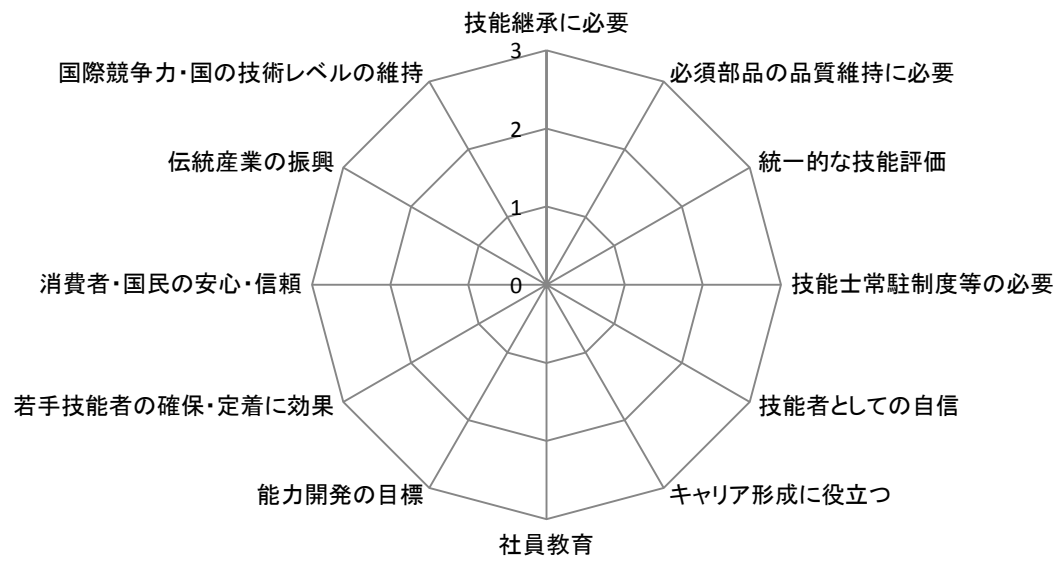
カテゴリ別レーダーチャート



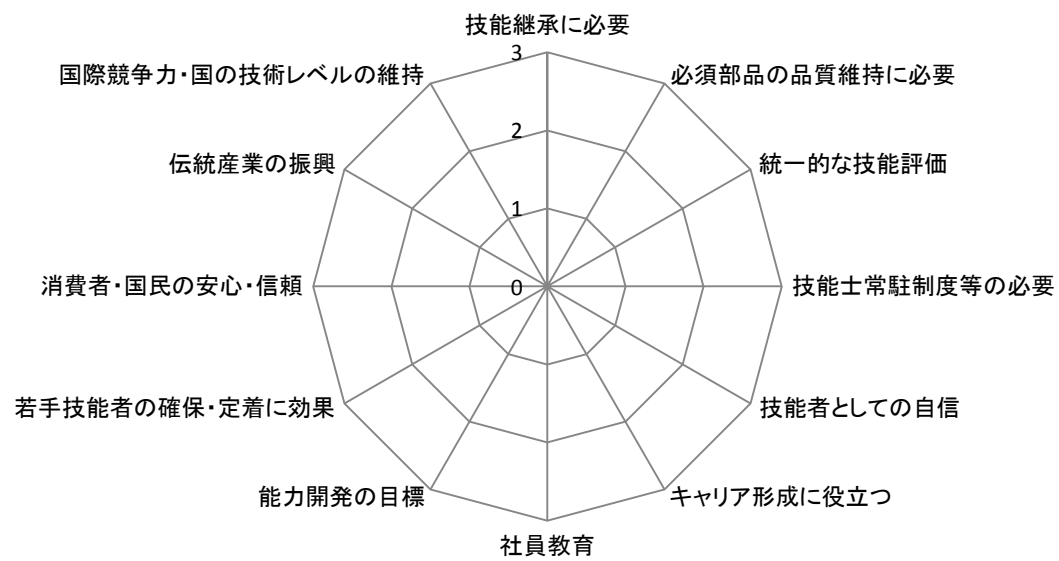
整備型



生産基盤提供型



工芸型



サービス型

